

**MAX**<sup>®</sup>

証券コード:6454



# MAX REPORT

株主のみなさまへ

## 84期報告書

自平成26年4月1日 ▶ 至平成27年3月31日

## 経営基本姿勢

顧客の支持を高め、いきいきと楽しく力を合わせ  
皆揃って成長していく集団を目指す

### 1.顧客を知る、現場を知る経営に徹する

自分達の顧客は誰か。そしてその顧客を知るために、また自らを知るために、「現場」「現物」「現実」の三現主義を徹底して実践し、その問題の原因、課題を解決することで顧客価値を高め、企業価値を高めます。

### 2.ガラス張りの経営に徹する

連結決算を重視し、一般に公正妥当な会計基準に基づき、企業の方針、業績、実態を適時・適切に社内外に公開してまいります。

### 3.全員参画の経営に徹する

社員は仕事を通して積極的に経営に参加し、それぞれの役割の中で事業成果を拡大してまいります。

### 4.成果配分の経営に徹する

結実された成果は、「株主」「社員」「社会」に公正に配分してまいります。

## 85期経営方針

### 1. 成長事業の確立 2. 収益力の強化 3. 自ら考え、行動を起こす

|             |   |                      |     |
|-------------|---|----------------------|-----|
| 経営基本姿勢・経営方針 | 1 | セグメント別の概要            | 5・6 |
| 株主のみなさまへ    | 2 | 中期経営計画について           | 7・8 |
| 財務ハイライト     | 3 | 会社情報/株式の状況           | 9   |
| 連結財務諸表      | 4 | 利益配分に関する基本方針/配当/株主メモ | 10  |

※本資料の将来に係わる記述は、現時点で入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確定な要素を含む仮定を前提としております。実際の事業は、今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろから格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、「現場」「現物」「現実」の三現主義を全社・全組織において実践して顧客の問題、課題を解決することで、顧客価値を高め、企業価値を高めてまいります。

## ご報告

### 当期の概要について

当期(平成27年3月期)におけるわが国経済は、政府の経済対策や金融政策による円安・株高の進行を背景に、輸出関連企業を中心に業績改善が見られるなど、緩やかな景気回復基調で推移しました。企業収益の高まりにともない、設備投資の増加や所得環境の改善が進んだ一方、消費税率引き上げの影響による個人消費の停滞や新設住宅着工戸数の減少が長期化するなど、当社事業を取り巻く経営環境は厳しい状況で推移しました。海外では、米国経済の改善が当社事業を後押しする結果となりましたが、欧州・アジア経済は低水準の成長に留まるなど、依然として先行き不透明な状況となりました。

このような状況の下で当社グループは、『1. 収益力の強化、2. 成長事業の確立、3. 自ら考え、行動を起こす』を当期の経営方針として掲げ、収益を生み出す企業体質への変革を目指してまいりました。また、「現場」「現物」「現実」の三現主義を全社・全組織において実践し、顧客の問題・課題を解決することで顧客価値を高め、企業価値を高めてまいりました。

この結果、売上高は649億5千万円(前期比0.2%の増収)、営業利益は52億9千万円(同15.4%の増益)となりました。経常利益は、59億3千9百万円(同23.1%の増益)、当期純利益は32億2千2百万円(同14.7%の増益)となりました。

### 今期の見通し

企業収益の改善にともなう雇用・所得環境の改善を背景に、国内景気は緩やかな回復基調で推移すると予想されますが、新設住宅着工戸数の急激な増加は見込めず、停滞が継続するものと考えられます。海外においても、米国が緩やかな成長を継続する一方、欧州・アジア新興国は低水準に留まっており、当社グループを取り巻く状況は依然として予断を許さない状況にあります。

このような状況下で当社グループは、当期の経営方針として掲げた「成長事業の確立」、「収益力の強化」に焦点を当てた取り組みを引き続き実施することで、国内外の成果拡大に努めてまいります。

平成28年3月期の売上高は670億円(前期比+3.2%)、営業利益は54億円(同+2.1%)、経常利益は55億7千万円(同+6.2%)、親会社株主に帰属する当期純利益は35億5千万円(同+10.2%)を計画しています。

今後とも株主のみなさまには、引き続きご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成27年6月

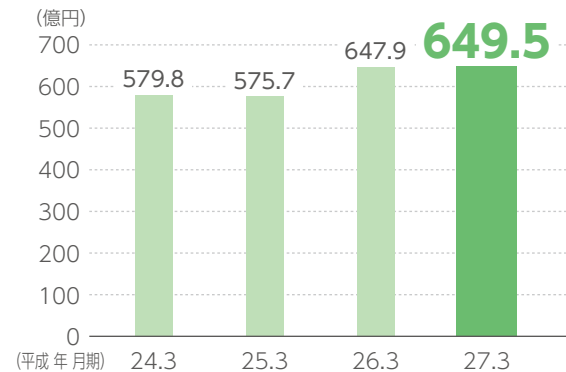
代表取締役社長

川村八郎



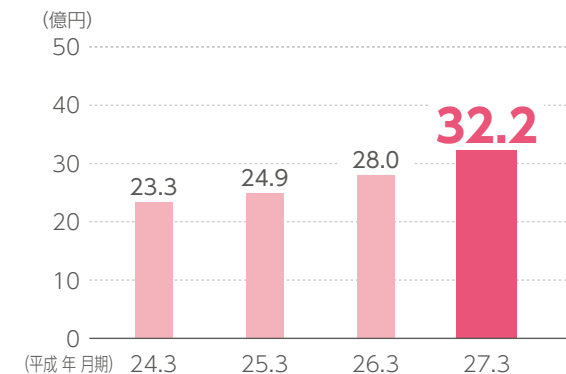
連結損益計算書の概要

売上高



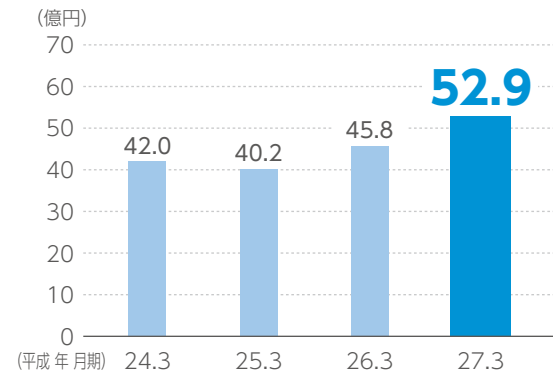
世界経済の回復を背景に、海外オフィス事業・海外機工品事業が牽引し、増収となりました。

当期純利益



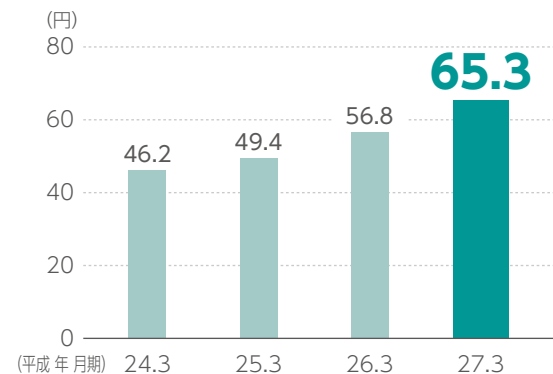
円安の進行による営業外収益の増加もあり、4.1億円の増益となりました。

営業利益



増収を背景に増加し、営業利益率は8.1%と目標の8.0%を上回りました。

1株当たり当期純利益



当期純利益の増加により、前期の56.8円から65.3円に増加しました。

貸借対照表

(単位:百万円)

| 科目           | 期別 | 前連結会計年度<br>(平成26.3.31現在) | 当連結会計年度<br>(平成27.3.31現在) |
|--------------|----|--------------------------|--------------------------|
| <b>資産の部</b>  |    |                          |                          |
| 流動資産         |    | 38,916                   | 43,354                   |
| 固定資産         |    | 45,641                   | 45,236                   |
| 有形固定資産       |    | 17,586                   | 17,714                   |
| 無形固定資産       |    | 254                      | 955                      |
| 投資その他の資産     |    | 27,799                   | 26,566                   |
| 資産合計         |    | 84,557                   | 88,590                   |
| <b>負債の部</b>  |    |                          |                          |
| 流動負債         |    | 11,698                   | 12,638                   |
| 固定負債         |    | 10,863                   | 10,456                   |
| 負債合計         |    | 22,562                   | 23,094                   |
| <b>純資産の部</b> |    |                          |                          |
| 株主資本         |    | 64,290                   | 65,434                   |
| その他の包括利益累計額  |    | △ 2,401                  | △ 54                     |
| 少数株主持分       |    | 105                      | 116                      |
| 純資産合計        |    | 61,995                   | 65,495                   |
| 負債・純資産合計     |    | 84,557                   | 88,590                   |

損益計算書

(単位:百万円)

| 科目          | 期別 | 前連結会計年度<br>(皇平成25.4.1<br>皇平成26.3.31) | 当連結会計年度<br>(皇平成26.4.1<br>皇平成27.3.31) |
|-------------|----|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 売上高         |    | 64,791                               | 64,950                               |
| 売上原価        |    | 40,822                               | 40,264                               |
| 売上総利益       |    | 23,968                               | 24,686                               |
| 販売費及び一般管理費  |    | 19,385                               | 19,395                               |
| 営業利益        |    | 4,583                                | 5,290                                |
| 営業外収益       |    | 395                                  | 784                                  |
| 営業外費用       |    | 152                                  | 135                                  |
| 経常利益        |    | 4,825                                | 5,939                                |
| 特別利益        |    | 206                                  | 21                                   |
| 特別損失        |    | 506                                  | 585                                  |
| 税金等調整前当期純利益 |    | 4,525                                | 5,375                                |
| 当期純利益       |    | 2,809                                | 3,222                                |

Point

- 1 現金及び預金が増加したことなどにより、流動資産が増加しています。
- 2 未払金や未払法人税等が増加したことなどにより、流動負債が増加しています。
- 3 為替差益の増加による営業外収益の増加などにより、経常利益は大幅に増加しています。
- 4 有価証券及び投資有価証券の取得による支出が前期に比べて減少したため、増加しています。
- 5 現金及び現金同等物の増加や、連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増加などにより、増加しています。

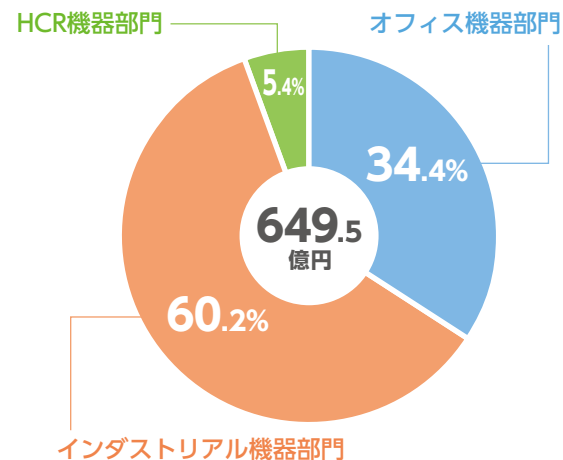
キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

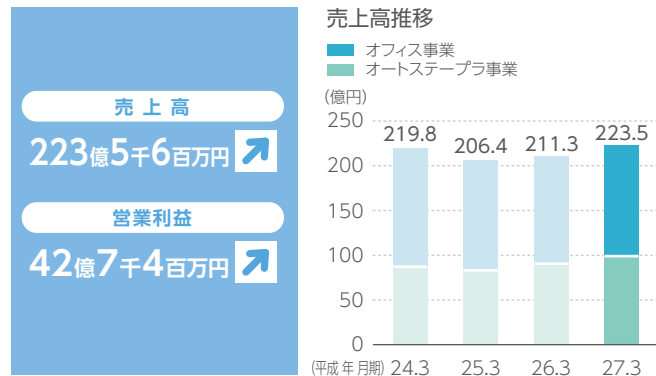
| 科目                       | 期別 | 前連結会計年度<br>(皇平成25.4.1<br>皇平成26.3.31) | 当連結会計年度<br>(皇平成26.4.1<br>皇平成27.3.31) |
|--------------------------|----|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 現金及び現金同等物の期首残高           |    | 16,073                               | 11,025                               |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー         |    | 4,801                                | 6,713                                |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー         |    | △ 6,090                              | △ 1,275                              |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー         |    | △ 3,901                              | △ 2,025                              |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額         |    | 143                                  | 373                                  |
| 現金及び現金同等物の増減額            |    | △ 5,047                              | 3,786                                |
| 連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 |    | —                                    | 531                                  |
| 現金及び現金同等物の期末残高           |    | 11,025                               | 15,343                               |

# セグメント別の概要

## ● 平成27年3月期売上高構成比



## ■ オフィス機器部門



## オフィス機器部門

- ・ オフィス事業は、主力のホッチキスをはじめとした文具や事務機械を通じてオフィスワークをサポートしています。
- ・ オートステープラ事業は、複写機メーカーに搭載される電子ホッチキスおよび消耗品を供給しています。

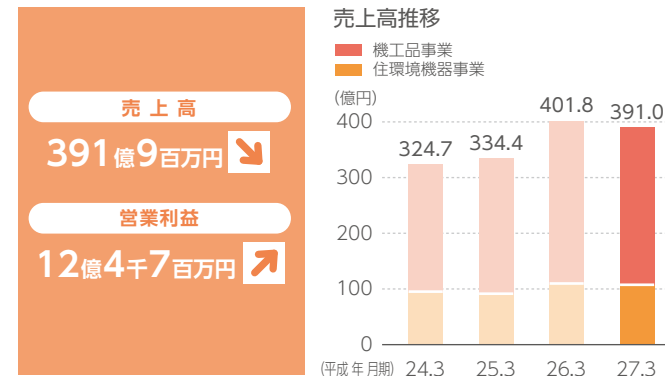
## インダストリアル機器部門

- ・ 機工品事業は、主力の釘打機をはじめとした木造建築用の工具、コンクリート構造物向けの建設用工具などを販売しています。
- ・ 住環境機器事業は、浴室暖房換気乾燥機、24時間換気システムなどを通じて、住まいの快適環境づくりを提案しています。

## HCR機器部門

- ・ 車いすや歩行器など移動機器の供給を通じて、高齢者の自立生活を支援しています。

## ■ インダストリアル機器部門



## 機工品事業

国内は新設住宅着工戸数の減少が継続した影響で減収となりましたが、海外はコンクリート構造物向け工具の販売が増加したこと、北米市場における木造建築用工具の販売が堅調に推移したこと増収となりました。

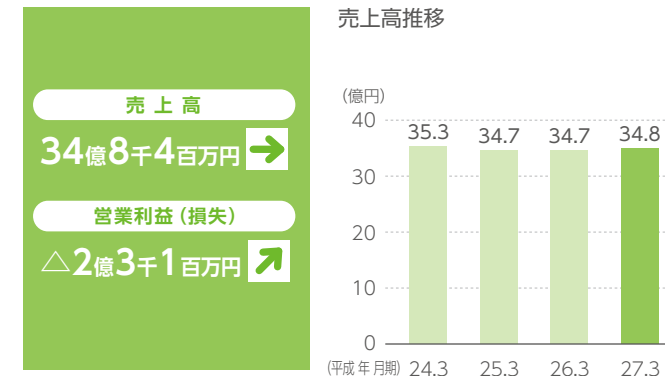


## 住環境機器事業

前期に発売した高機能換気システムが貢献したものの、新設住宅着工戸数の減少に伴い、主力の浴室暖房換気乾燥機の販売が減少したことなどにより、減収となりました。



## ■ HCR機器部門



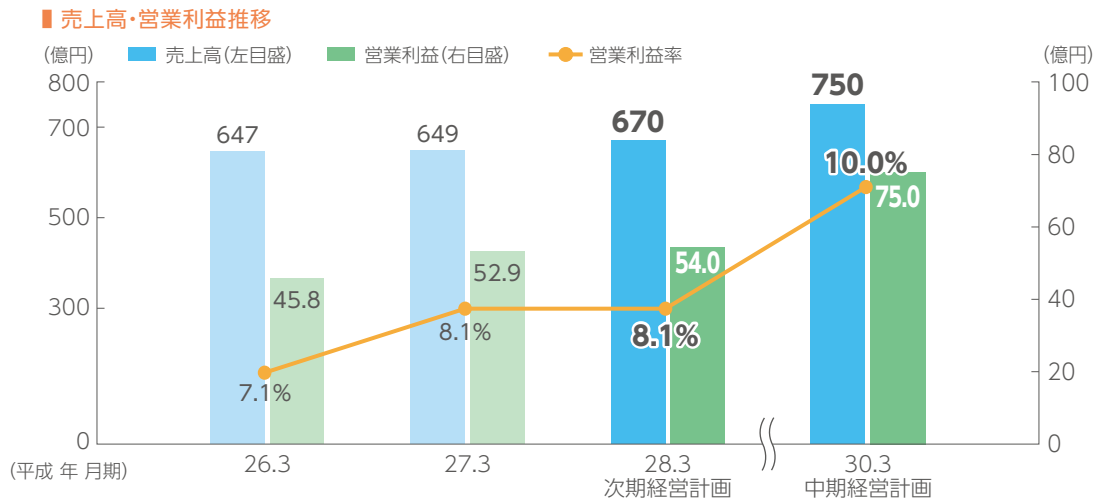
## HCR機器部門

歩行器の販売が減少しましたが、レンタルルートへの導入が進んだことなどにより、主力の標準車いすの売上高が堅調に推移し、前年同期水準の売上高となりました。



## ■ 中期経営計画(平成30年3月期)の基本的な考え方

### 「成長事業の確立」と「収益力の強化」



## ■ 中期経営計画指標

|                      | 前期 (平成26年3月期) |         | 当期 (平成27年3月期) |         | 次期 (平成28年3月期) |         | 中期 (平成30年3月期) |                      |
|----------------------|---------------|---------|---------------|---------|---------------|---------|---------------|----------------------|
|                      | 実績            | 増減率 (%) | 実績            | 増減率 (%) | 計画            | 増減率 (%) | 計画            | H30/H27<br>平均伸長率 (%) |
| 売上高 (億円)             | 647           | 12.5    | 649           | 0.2     | 670           | 3.2     | 750           | 4.9                  |
| 営業利益 (億円)            | 45            | 13.8    | 52            | 15.4    | 54            | 2.1     | 75            | 12.3                 |
| 売上高営業利益率 (%)         | 7.1           | -       | 8.1           | -       | 8.1           | -       | 10.0          | -                    |
| 経常利益 (億円)            | 48            | 3.5     | 59            | 23.1    | 55            | △6.2    | 76            | 8.6                  |
| 当期純利益 (億円)           | 28            | 12.8    | 32            | 14.7    | 35            | 10.2    | 48            | 14.2                 |
| 1株あたり当期純利益 (円)       | 56.88         | -       | 65.37         | -       | 72.02         | -       | 97.38         | -                    |
| 自己資本当期純利益率 (ROE) (%) | 4.5           | -       | 5.1           | -       | 5.4           | -       | 6.8           | -                    |

## ■ 目標達成のために

### オフィス機器部門

新製品の投入・訴求により、付随する消耗品ビジネスの確立を目指します。

#### 【オフィス事業】

- ・国内では、差別化された事務機の新製品を断続的に投入し、ラインナップを強化します。また、非金属とじ具により新たな消耗品ビジネスを確立し、事業拡大を図ります。
- ・海外では、アジア市場の新規開拓国において販売ルート・チャネルの強化により、ホッチキス事業のシェア拡大に取り組みます。また、文字表示事業では、ライトハウス社のマーケティング手法を活用し、欧州・アジア市場での売上拡大を図ります。

#### 【オートステープラ事業】

- ・出荷先である複写機メーカーとの連携による「デザインイン」活動で製品展開を進めます。



### インダストリアル機器部門

重点市場への導入促進・拡販により事業を最大化させます。

#### 【機工品事業】

- ・国内では、エリアマーケティングで市場を捉え、営業活動の工数配分を見直し、エア工具の拡大を進めます。また、コンクリート構造物向け工具は複数市場での拡販を継続し、活動を強化します。
- ・海外では、欧米市場において販売チャネルの構築により、コンクリート構造物向け工具の普及拡大を図ります。また、ガスネイラや高圧釘打機の売上拡大により消耗品事業の再構築を目指します。

#### 【住環境機器事業】

- ・トップシェアの電気式浴室暖房換気乾燥機を軸に有力顧客・市場向けに複数製品を提案し事業拡大を図ります。また収益性向上のため、基本設計や部品の共通化を進めるとともに生産性を高め、原価削減に取り組みます。



### HCR 機器部門

市場の開拓と収益改善を進めます。

- ・グループ会社である(株)カワムラサイクルにおいて収益性改善を優先して取り組みます。
- ・加工設備の自動化や品目削減等により生産性を改善するとともに、売上拡大に向け新規販売ルートに対する活動の集中を行います。



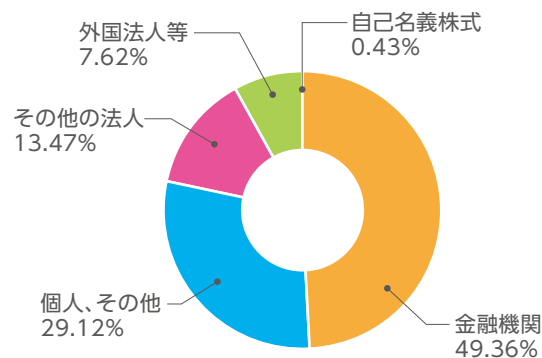
## 会社概要 (平成27年3月31日時点)

商号：マックス株式会社  
 本社：東京都中央区日本橋箱崎町6番6号  
 設立：昭和17年11月26日  
 資本金：123億6千7百万円  
 従業員：2,773名  
 グループ会社：連結子会社24社  
 (国内11社、海外13社)

## 取締役・監査役・執行役員 (平成27年6月26日時点)

|             |       |        |       |
|-------------|-------|--------|-------|
| 代表取締役社長     | 川村 八郎 | 上席執行役員 | 中野 俊和 |
| 専務取締役上席執行役員 | 塩川 博  | 上席執行役員 | 加藤 賢二 |
| 常務取締役上席執行役員 | 樋口 浩一 | 主幹執行役員 | 岸 信夫  |
| 常務取締役上席執行役員 | 黒沢 光照 | 主幹執行役員 | 浅見 泰  |
| 取締役(社外)     | 平田 稔  | 主幹執行役員 | 角 芳尋  |
| 常勤監査役       | 木暮 郷司 | 執行役員   | 斎藤 篤  |
| 常勤監査役       | 梅沢 宏  | 執行役員   | 小鯛 富雄 |
| 監査役(社外)     | 畠山 正誠 | 執行役員   | 小川 辰志 |
| 監査役(社外)     | 望月 眞宏 | 執行役員   | 佐原 隆  |

## 株式分布状況 (所有者別株式数比率) (平成27年3月31日時点)



発行可能株式総数：145,983,000株  
 発行済株式の総数：49,500,626株  
 株主数：4,253人

## 大株主 (上位10位まで) (平成27年3月31日時点)

| 株主名                       | 当社への出資状況 |         |
|---------------------------|----------|---------|
|                           | 持株数(千株)  | 持株比率(%) |
| 第一生命保険株式会社                | 4,284    | 8.69    |
| 日本生命保険相互会社                | 3,762    | 7.63    |
| マックス共栄会第一持株会              | 3,687    | 7.48    |
| マックス共栄会第二持株会              | 2,796    | 5.67    |
| 株式会社みずほ銀行                 | 2,344    | 4.76    |
| 株式会社群馬銀行                  | 2,114    | 4.29    |
| 明治安田生命保険相互会社              | 1,588    | 3.22    |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)   | 1,452    | 2.95    |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 1,445    | 2.93    |
| マックス従業員持株会                | 1,105    | 2.24    |

※持株比率については、自己株式212,716株を控除して算出しております。

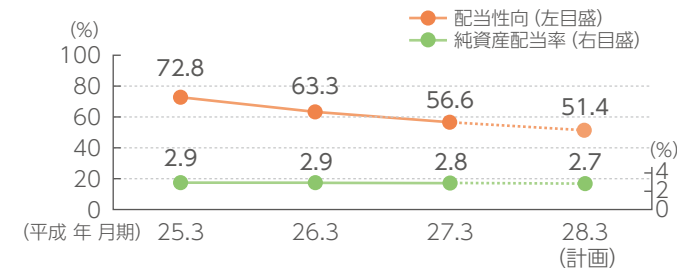
## 利益配分に関する基本方針 / 配当

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の最重要政策のひとつとして位置づけ、事業の成長を図り、事業利益を追求することにより自己資本当期純利益率(ROE)を向上させ、業績に裏づけされた成果の配分を行うことを基本方針としております。

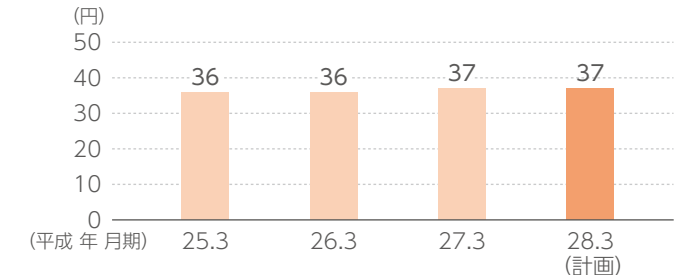
当社の配当政策は、「連結決算を基準に「配当性向40%を下限とし、純資産配当率2.5%を目指す」を基本方針としています。

当期の配当につきましては、事業収益が堅調に推移するなか、株主のみなさまからのご支援にお応えするため、前期から1円増配の「1株当たり年間配当金37円」とさせていただきます。

## ■ 配当性向 / 純資産配当率の推移



## ■ 1株当たり配当金の推移



## 株主メモ

事業年度：毎年4月1日から翌年3月31日まで  
 定時株主総会：毎年6月開催  
 基準日：定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日 其他必要のある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。  
株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関  
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
株主名簿管理人事務取扱場所  
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 郵便物送付先：〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 電話照会先：☎ 0120-782-031 インターネットホームページURL <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>  
 単元株式数：1,000株  
 公告の方法：当社ホームページに掲載いたします。<http://www.max-ltd.co.jp/>ただし、事故その他やむを得ない事由により、当社ホームページに掲載できない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。  
 上場証券取引所：東京

<http://www.max-ltd.co.jp/ir/> 本社 〒103-8502 東京都中央区日本橋箱崎町6番6号 TEL.(03)3669-0311(代)

## 第5回 マックス

# 「心のホッチキス・ストーリー」

## 入賞作品が決定!

ホームページにて、「心のホッチキス・ストーリー」と題して、「あなたが今“心のホッチキス”を使ってとどめておきたいこと」を公募し、厳正な選考の結果、受賞作品を決定しました。

### 応募作品の傾向

今回で第5回目を迎えたマックス「心のホッチキス・ストーリー」に、過去最高の5,776件の応募がありました。回を重ねるごとに老若男女、幅広い年齢層から応募をいただくようになりました。中でも、授業の一環として採り上げていただく学校が増え、毎年応募される学校もあります。今年もどのような作品が集まるのかとても楽しみに待っておりました。

大賞は、過去最年少となる高校生が受賞しました。娘を不安にさせまいと、自身の病を隠して明るく振る舞う父親の姿を綴ったものです。父親の深い愛情を感じ取った優しい気持ちも伝わる、感動的なエピソードでした。

今回の企画が、忙しく過ぎていく日常生活の中で、身の回りにある小さな幸せに気づききっかけになれば、大変うれしく思います。

詳しくは当社ホームページをご覧ください。  
[https://wis.max-ltd.co.jp/event\\_op](https://wis.max-ltd.co.jp/event_op)



※他の受賞作品もご紹介しています。



### マックス・心のホッチキス大賞

#### 愛知県 女性 18歳 ルイス さん

毎週金曜日は、父と二人で銭湯に行く。それが私と父の習慣だった。学校から超特急で帰り、早めの夕食をとってから、タオルを片手に車に乗る。大好きな歌を熱唱する父は、いつも楽しそうだった。

その日の金曜日にも、いつも通り銭湯に行って、湯上がりのアイスを食べながら帰り道を行っていた。一通り歌も終わり、家に着く直前、父は何気ない口調で、出張に行くからしばらく銭湯には行けなと言った。いつまで行くの?と聞くと、ん〜、わかんない!とタレントのものまねでごまかす父。その軽さに流され、私もオッケー!なんてものまね返しをした。

それから父は、半年近く戻らなかった。父が出かけてから一ヶ月後に聞いた話で、その訳がわかった。父の体は癌に侵されていた。幸い転移は見られなかったが、聞かされた当初、私はショックで学校を休んでしまった。そして、車の中の会話を思い出した。あの時、父は私を不安にさせないために、わざと明るく振る舞っていたのだ。自分が大きな病をかかえていながら、尚、私のことを考えてくれていたと知ると、涙が止まらなかった。

それから半年後、帰ってきた父は、前よりも大分痩せていた。涙腺を崩壊させる私の顔をなでながら、「風呂、行くか」と父はたずねた。帰って来た日は金曜日。今までで一番幸せな金曜日だった。



### マックス・U-18大賞(高校生の部)

#### 宮崎県 女性 17歳 きょうこ さん

「父のフェイスブック」

ある日、姉から「お父さんのフェイスブック面白いよ。」と聞き、興味本位で検索してみた。すると父の顔写真が。開いてみると仕事の話ばかりだった。会食の時の写真や出張先で撮ったと思われる写真などが沢山投稿されていた。遡って昔の投稿を見ていると、家族で出かけた時のことや私が趣味で作ったお菓子の写真なども沢山投稿されていることに気づいた。写真には必ず文章も添えられていた。思わずクスッと笑ってしまうような内容から、不覚にも涙が出そうになる内容まであった。その中で私が最も印象に残っているのは、私の大学受験の前日に投稿されたものだ。文章の一番最後には「頑張れ。」という言葉と共に私の小さい頃の写真が載せられていた。私は受験前日、父から直接「頑張れ。」とは言われなかった。直接言わずにフェイスブックに書くのが何だか父らしい。父のフェイスブックを見た事は気づかれなかったが、手が滑って友達申請のボタンを押してしまった。



印刷時に、VOC(揮発性有機化合物)などを含む湿水が不要となる水なし印刷です。



CO<sub>2</sub>を排出しないグリーン電力を一部使用している工場での印刷しています。



石油系溶剤の一部を植物油に置き換えたベジタブルインキを使用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)に基づいた、読みやすい文字デザインを使用しています。